

アトリエ 琉游舎 だより 136号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2022年7月27日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

有縁無縁の精霊を思い感謝する日

お盆施餓鬼法要

8月14日(日)10時半から

- お盆は祖先の霊を供養する行事です。この期間には祖先の霊が子孫や家族の元に帰って来るとされ、盆踊り、精霊流し、迎え火、送り火などの様々な行事が営まれます。日本人古来の祖先への感謝と供養の気持ちが仏教の考えと融合し今も生活の中に定着しています。
- 施餓鬼会は貪り苦しむ餓鬼に対し飲食を施し、先祖代々や広く無縁の諸精霊を供養する法要です。自分の命はすべての生命と繋がっていることを自覚し、自らの欲や貧りを反省するとともに生きとし生けるものすべてに感謝し思いを巡らす大切な法要です。
- 琉游舎ではお盆と施餓鬼会を融合して「お盆施餓鬼法要」を行います。有縁（親や祖先）の精霊だけではなく、有縁・無縁を問わないすべての精霊への供養と回向の法要です。
- 一年に一回、自分の近い故人や祖先に思いをめぐらし感謝し、また永遠の過去から永遠の未来までの、有縁無縁の精霊を思い感謝し供養する日にいたします。また受難、殉難、遭難、自然災害、人為災害、戦争、病没、公私問わず、有史以来亡くなられたすべての方へ供養・回向し、私達の安寧と生きとし生けるものの平和を祈念いたしたいと思えます。
- 新型コロナ禍の終結も合わせて祈念していきます。ただ祈念すれば何事も叶う訳ではありません。ましてやコロナ退散法要をしたからと言って心配無用などと言うことは全くないことは明らかです。大切なことは神仏にお願いすることではなく、私たちが「願い、誓い、行う」ことです。家内安全息災延命などを**願い**、有無両縁の精霊の前で**願い**を**誓い**、日々の生活の中で**願い**のままに**行う**ことが、私たちが法要を行う真の意味であり目的です。

閑話休題:お盆は日本古来の先祖供養や祖霊来訪の民俗信仰と習合して今の仏教行事になったといわれています。その根拠となる経は盂蘭盆経ですが、これは中国で作られた偽経です。因みにその経の内容は、安居（修行者が雨期に集団生活を送ること）の最中、弟子の目連尊者が亡くなった母親の姿を探すと、餓鬼道に堕ちているのを見つけた。水や食べ物を差し出したが、ことごとく口に入る直前に炎となって母親の口には入らなかったため哀れに思って釈迦に実情を話して方法を問うと「安居の最後の日にすべての比丘に食べ物を施せば、母親にもその施しの一端が口に入るだろう」と答え、その通りに比丘のすべてに布施を行うと、比丘たちは大いに喜び、目連の母親は餓鬼の境地から脱した。」と言うものです。上手くできた話ですが、これを根拠に布施を強要するような宗教は、如何なものでしょうか。（狂言綺語に続く）

読書会

8月9日30日
(火)13時半

5月からは法華経を読みます。2回目の法華経読書会です。分かり易く楽しい会です。資料はすべてご用意いたします。皆さんの参加をお待ちしています。

写経会

8月7日(日)
13時半

般若心経・自我偈・観音偈の写本を用意しています。初めての方もすぐにできます。

7月28日8月4日11日の映画会はお休みします

8/18 木	13時半	北西騎馬警官隊 (120分)	ゲーリー・クーバー主演。1885年カナダ北西部で、先住民の混血族メディス率いる反乱軍と北西騎馬警官隊との戦いを描いたセシル・デミル監督の大作映画
-----------	------	----------------	--------------------------------------------------------------------------

私たちは「信ずる」ことを必要としています。全てが不信だらけであれば心が定まらない毎日を過ごさなければなりません。不安定な心には安らぎはやって来ることはないのです。夜、安らかな眠りにつくことができるのは、明日が自分に訪れると信じられるからです。朝の寝覚めがあるのは、今日も太陽の光が私たちに注ぐことを信じられるからです。しかし病気や事故のような目に見える出来事ばかりでなく、漠然とした孤独感や将来への不安が、そのあたり前の毎日への信頼を損なってしまうことがあります。これは不幸なことです。出来事が招いた不幸だけでなく、その出来事によって安らかな日々がやって来ることを信じられなくなってしまった不幸です。不信の種が心に芽生えはじめるとその不安は果てしなく拡大し続けてしまうのです。

私たちの不安を取り除き、安らぎの処へと導くためにそっと手を差し伸べてくれる「信の手」が宗教です。「導きの手」でもあります。この手に導かれて私たちは自らの足で安らぎのもとへと歩んでゆくのです。仏教の「信行」は「導きの手」が「信」であり法灯明です。「自らの足」が「行」であり自灯明です。「信のままに行くこと」が宗教です。しかしその宗教を騙る人達がこの世には溢れています。彼らは不安を除く素振りをしてそれを増長させるのです。「私たちの用意する不幸発安楽行きの船に乗れば、あなたには必ず幸福が訪れますよ」との勧誘文句に惹きつけられて、高い乗車賃を払って乗船してしまった人は、本当に安楽に行き着くことができるのでしょうか。乗車賃を布施と騙り、乗船を信行と騙る者たちの行為を私は何と呼べばよいのでしょうか。彼らがそれを宗教と呼ぶならば、私の考える宗教には別の名称が必要となります。もし私の宗教を宗教と呼び続けられるならば、彼らの行為は不幸を目的としない限りはビジネスと呼べるかも知れませんが、不幸を増長しているならばそれは詐欺あるいは無限連鎖講という呼び方がふさわしいでしょう。

人が「信ずる」目的はただひとつ、幸せになるためです。信ずることで迷いや不安がなくなり心が安らかになること、それが「幸せ」です。信ずることで自分自身が幸せになることができたならば、それを周りの人達に拡げていき自分の幸せを他者と分かち合うこと、それが「幸せ」です。その実現を信じて日々を信行に生きる人々を信者というのです、自分たちの教義を信じる者だけで徒党を組み、信じない人々をその幸せから排除しても構わないと考える人達を「不信者」といいます。宗教教義を信じるのが「信ずる」ことではありません。「信ずる」ことで自らにもたらされた安らぎを喜び感謝する者が信者であり「信ずる」ことです。

信仰に対価を望むならばそれは「信ずる」ことではなく「取引」です。「信の手」を騙る者たちが特等席から船底大部屋までの料金表を片手にあなたたちを不幸から救い出してあげますよと勧誘しています。救いの船に等級や乗船料が必要とされるならば、それは「幸せ」を商品とした取引です。取引にはリスクが伴います。損もすれば得をする人もいます。自己破産、家族離散になる人もいるでしょう。幸福の船に乗ったつもりが不幸の船だったと気付けば下船も可能ですが、取引相手にとっては相手の損は自分の利益です。不信者たちの「あなたの信心が足りないからですよ」という騙りを信じてしまった人々は、不信者の幸せの基準から排除され無限連鎖の不幸の中に墮とされてしまいます。幸せを取引の口上にする船に乗った人達は、決して幸せになることはありません。不信者は不安の種を播き世の中を不安だらけにする人達なのですから。

幸せは人それぞれのもので、幸せの絶対値は存在しません。また幸せは無常のもので、縁起の法則に従えば今の幸せは明日の不幸せにもなってしまいます。それを追いつける限りは心の安らぎは訪れません。金儲けに取り憑かれた者が、どれだけ稼いでも満足できずに、金の亡者と化してしまうように、幸せの亡者となってしまいます。幸せに取り憑かれた者は実は不幸せに取り憑かれた者なのです。今日もつまらない一日だったと思って眠りにつく人は、翌日の朝、今日もまたつまらない一日になるだろうと思ってしまいうでしょう。逆に今日一日も楽しい一日だったと眠りにつけば、翌日の朝、今日もまた楽しい一日になるだろうと考えて過ごすでしょう。この楽しい日々を「信ずる」こと、それが「私は幸せである」と言うことなのです。

日々を信じられない不信者たちが互いに騙り合って作った巨大な布施の集金システムが日本中にあります。憲法の信仰の自由と宗教法人の特典によって治外法権を与えられたこれらは、政教分離の網をくぐり抜け、政治家と持ちつ持たれつを築き、その維持のために多額の布施を集金し、不幸せの再生産を行っています。彼らは不信者同士で教団という徒党を組み、一様に宗教法人を名乗っています。そのひとつが最近、負のエネルギーを爆発させました。恨みを逆恨みの形で実行したように見えますが、それはありのままに起こったことではありません。教団はピラミッド型で構成され、頂点に近いほど彼らの騙る「除霊・招福」の実現が高まるように見えますが、ありのままに観たときそれは信も不信も幸も不幸も一緒くたに抱えたままの混沌とした不安の人達の集団です。そこには安らぎはなく不信がマグマのように蓄積されているだけです。

騙る者たちは信を騙り善を騙り民主主義を騙り正義を騙ります。それを騙りだと知られても、そうでないと言いくるめる技術と封じ込める権力を持つ者に、私たちは螻蛄の斧すら振り回すこともできません。騙りは社会に深く沈殿し、今や社会の基盤をなし、”騙らずんば人に非ず“の体を為しているようです。そこで起きたマグマの爆発は、「信ずる」ことができない者たちの、騙り社会に対する異議申し立てです。それが騙り社会の頂点に立つ象徴的存在に向けられたのです。特定の個人に向けられたものではなく、琉游舎：戸井 出琉・恭子 ましてや特定の宗教や政治信条に向けられたものでもありません。騙る者たち **問い合わせ：0287-53-7848 08033508152** ちを容認する私たちに「信ずる」ことの復権を迫る銃口なのです。 **矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850**